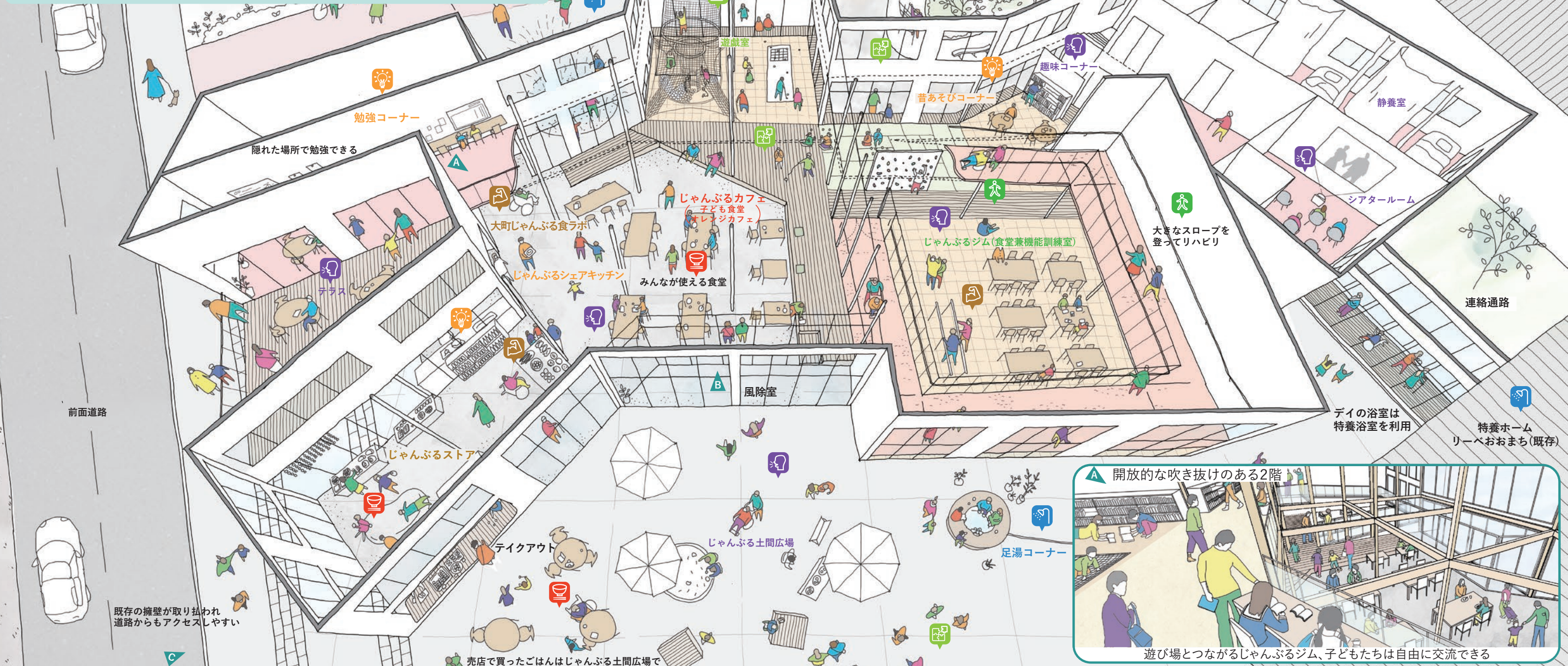


# コミュサポ じゃんぶるOOMACHI

ジャンブルとは、「ごちやまぜ」「まじり合う」等の意味がある。要介護高齢者や障がい者、子どもたちを中心に、地域住民すべての人がまじり合い、制度の縦割りによる壁を乗り越え、ごちやまぜが「人間の営みにふさわしい社会」であることを再認識できる場を創造する。また、大町の食をテーマに様々な地域交流の場を設け、過疎の進む地域の再生拠点となることを目指す。「特別養護老人ホームの壁」を壊し、様々な利用者とふれあえる「デイサービス」を増築する。そこは、子ども食堂、オレンジカフェ、シェアキッチン、郷土料理ラボが複合され、子どもたちの健やかな成長を応援する「福祉小町」である。介護される側/する側、支援される側/する側という垣根を超えて、誰もがここに生きる地域住民として誇りを持てる場となるのが最終目標である。さらにこのプロジェクトはクラインガルテン付き住宅地の建設を予定しており、大町市全体の移住促進を牽引する。

じゃんぶる=「ごちやまぜ」「まじりあう」



### 平面計画

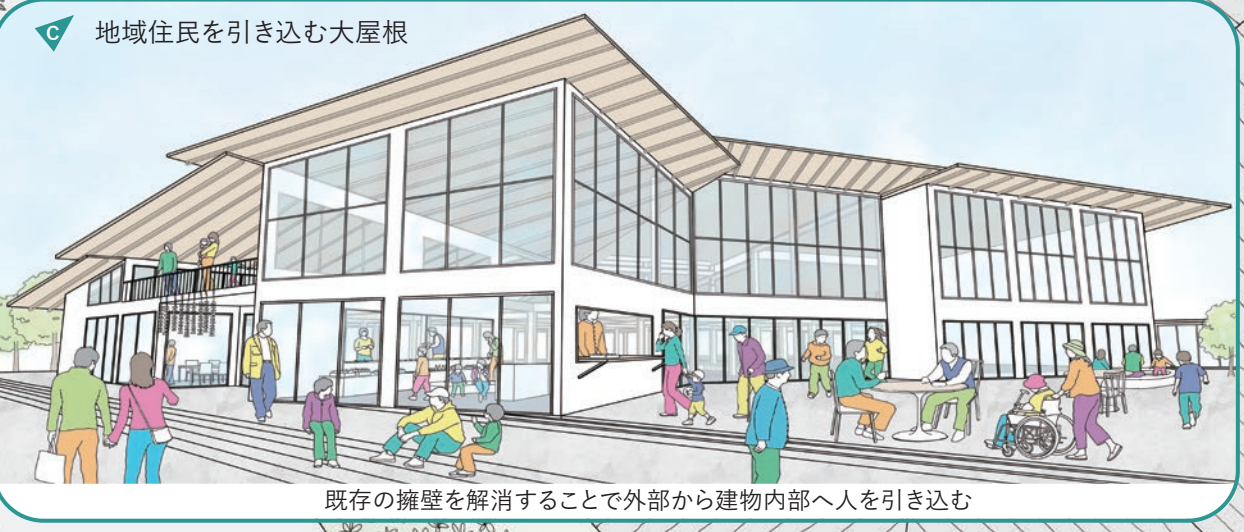
2階平面図

3階平面図

1階配置平面図

別棟増築部	寸法	構造
建築面積: 827.28㎡	最高: 8,049mm	木造2階建て
延床面積: 998.96㎡	軒高: 5,592mm	用途地域: 第一種住居地域
1階 698.96㎡ / 2階 300.00㎡	階高: 1階 2,700, 3,000 / 2階 1,500~4,355	

- 利用者の動線
- 特養ホーム入所者
- デイ利用者
- 一般利用者
- 搬入車両



### 7つの場と大町の食

人間が健全に暮らすために必要な要素を7つに分解し、「7つの場」としてプロットする。その要素とは、「たべる」「しゃべる」「うごく」「はたらく（役割）」「あそぶ」「みがく」「まなぶ」である。この7つの要素にあった「場」を整備することで、特別養護老人ホーム入所者、デイサービス利用者、地域住民、障がい者、子ども等のすべての人がまじり合って交流できる。加えて地域住民や観光客、移住者とジャンブルの場で日常的に交流する架け橋を「食」を通してつなぐ。大町には豊かな水源のもと多彩な農作物や郷土食があり、食育や地域おこしにとって有効な要素である。7つの場と大町の食の融合によって新たなランドマークを提案する。

### 7つの場の配置

7つの場が互いに重なり合うようにボリュームを配置する。特養ホーム・デイサービス・地域の人々が使えるカフェ（子ども食堂、オレンジカフェ）を配置する。食を中心に多様な人々が集まる。

### 配置計画

大町地区子ども育成会、老人クラブ大新田、はなのき保育園

### 関係組織図

コミュサポ じゃんぶる OOMACHI 58名  
調理スタッフ 5名、管理栄養士 1名、調理員 1名、生活相談員 5名、介護職員 10名、生活相談員 10名、介護職員 3名、生活相談員 2名、介護職員 3名

### 将来構想

地域拠点 [特養・地域]の壁をなくす [地域・観光客]の壁をなくす [地域・移住者]の壁をなくす

1年後、5年後、10年後の構想と、大町CCRC化の拠点としての機能も兼ね備える。地域拠点を起点とした段階計画により、特養ホームと地域の交流及び市全体のCCRC化へと波及させる。

避難所位置 ※ 指定避難所、指定+指定緊急避難所、指定緊急避難所、指定+福祉避難所